

こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地域の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として国土交通大臣が委嘱した方です。



Yoshiaki Yano

“未明”って？ “時々”雨って？

“あす未明から大雨のおそれ”と報じられたら、およそ何時頃から大雨になるのでしょうか？ また、「曇時々雨」とは、雨の降る時間帯はどの程度なのでしょう？



天気予報や注意報・警報・気象情報などは、テレビ・インターネット・SNSなど、多様な媒体を通じ音声・文字・画像で伝えられています。これらで用いられる用語は、“明確さ”“平易さ”“聞き取りやすさ”などが求められ、誰にでも正確に伝わるよう、報道機関などの意見も取り入れ定められています。下表に示す“一日の時間細分”を示す用語は基本的なものであり、皆さまも見聞きされることがよくあると思います。

各時間細分の名称は、直感的にご理解できるのでしょうか。これらは季節や日の出・日の入りの時刻によっても変わることは

ありません。中でも1日を8分割した3時間毎の時間細分はよく用いられています。ひよっとすると、「未明」については漠然と理解していたが、00時～03時の時間帯を表すものであることを改めて確認した、という方もいらっしゃるかもしれませんね。18時～21時の時間帯を示す「夜のはじめ頃」についても同様かも知れません。この機会に他の時間細分についてもご確認いただければと思います。

皆さまの中には、「朝のうち」とか「宵のうち」を思い浮かべる方もいらっしゃるかも知れません。これらは以前、06時～09時、18時～21時の時間細分に用いられていました。

「朝のうち」については、例えば「くもり“朝のうち”から“昼前”まで雨」となると、「昼前」の時間帯と重なるところがあり、不自然だというご意見もあったことから、「朝」に変更されています。また「宵のうち」は、情緒ある美しい言葉なので用いたいというご意見もあったようですが、もっと遅い時間帯を表すものと理解している方も少なくないので、分かりやすく誤解されることの少ない「夜のはじめ頃」に変更されています。

また、「午後是一時雨」のように用いられる「一時」「時々」「のち」の時間経過を示す用語については、次のとおり定められています。

- 一時 現象が連続的に起こり、その現象の発現期間が予報期間の1/4未満のとき
- 時々 現象が断続的に起こり、その現象の発現期間の合計時間が予報期間の1/2未満のとき
- のち 予報期間内の前と後で現象が異なるとき、その変化を示すときに用いる

「午後是一時雨」は、午後12時間のうち、3時間(1/4)未満の雨が降ることを、また「〇日は時々雨」は、一日24時間のうち6時間(1/4)から12時間(1/2)の雨を示しています。

これらを参考に、天気予報などをより有効にご利用いただければと思います。

天気予報などで使用する
1日の時間細分

時刻	3時間毎に細分					
00時	未明	午前中				
03時	明け方					
06時	朝				朝	朝
09時	昼前			日		
12時	昼過ぎ					
15時	夕方		午後			夕
18時	夜のはじめ頃		後		夜	晩
21時	夜遅く					
24時						